

中国語母語話者における日本語習得上の困難点

——効果的な敬語教育に関する考察を中心に——

宮 岡 弥 生*

1. はじめに

日本の国内外における日本語学習者の中で、中国語を母語とする日本語学習者の占める割合は高い。日本への留学生に絞ってその数を見ると、中国からの留学生の割合は平成15年5月1日現在で全体の64.7%にも上っている（文部科学省，2004）。日本語と同様に表記形態として漢字を使用する中国語を母語とする日本語学習者にとって、漢字圏以外の言語を母語とする学習者と比べて漢字の習得に費やす時間が短いことは、日本語を学習する上で有利である。しかしその反面、漢字の意味や字形の相違点や類似点が習得上の障害になっていることもある（彭，2003）。また、語句の修飾の仕方や時制といった文法的な相違点が、日本語習得上の妨げとなる場合もある（張，2001）。そのため、学習者自身が気づく前に、日本語の指導者がこのような両言語間の相違点や類似点に着目し、学習者のおかしやすい誤りに注意しながら指導を進めると、学習者はより効率的に日本語を習得できるのではないかと思われる。

母語と目標言語のどちらにも同種の文法項目が存在している場合には、両者を比較できるため相違点や類似点が分かりやすいであろう。しかし、母語と目標言語のどちらか一方にしか、特定の文法項目が存在していないことがある。例えば、現代中国語には体系的な敬語が存在しないと言われている（彭，1999）のに対して、日本語には体系的な敬語が存在する。古代中国語には儒教の礼法に基づく敬語体系があったが、近現代中国の社会体制や教育システム、価値観などの激変によって消滅してしまっており、現在残っているのは親族呼称の転用、間接表現、人称代名詞の回避など発話ストラテジーによる丁寧さの表現である（彭，1999）。このように体系的な敬語をもたない中国語を母語とする日本語学習者にとって、日本語の敬語は

* 広島経済大学経済学部講師

難しいようである。日本語の敬語について中国語を母語とする日本語学習者を対象に母（1999）が行った調査では、40.2%の被調査者が、敬語は日本人との交流に役立たないと答えた。さらに、36.5%の学習者が日本人と話すとき敬語を使ったことがないと答え、63.4%が敬語の習得不完全のために日本人と話すとき困難を感じていた。しかし、日本語では何を言うにも敬語あるいは待遇表現に気をつかわなければならない（菊地，1997）のが現実であるため、日本国内で日本語を用いて生活しようとするならば、敬語を無視することはできない。外国人と話す場合には、話し手が日本人の場合よりも、聞き手である日本人は話し手が敬語を使わないことに対して寛容である（宮岡・玉岡・浮田，1999）とはいえ、外国人であれば敬語を全く使わなくてもいいということではない。また逆に、初級の段階から難しい敬語を覚える必要もない。

本稿では、中国語を母語とする日本語学習者を指導する際、彼らにとって習得が困難なものを指導者がきちんと理解しておくことが、日本語の効果的な指導につながるという認識のもとに、中国語母語話者がおかしやすい誤りについて述べる。はじめに、中国語を母語とする日本語学習者が間違えやすい語彙および文法事項にはどのようなものがあるかを簡単に紹介する。その後、中国語母語話者の多くが苦手意識を感じている敬語に焦点を当て、中国語母語話者が効果的に習得でき、なおかつ聞き手である日本人にも違和感を持たれない日本語の敬語とはどのようなものかについて考察する。

2. 中国語を母語とする日本語学習者が間違えやすいもの

2.1. 漢字

中国語と日本語はともに漢字を表記形態としてもっているが、同じ漢字でも中国語と日本語で字形の違うものがある（彭，2003）。それが、字形の上で一画程度のものといった非常にわずかな違いである場合は特に、日本語の漢字の習得は難しいと考えられる。例えば、中国語の「帯」と日本語の「帯」、同様に「沖」と「沖」、 「対」と「対」などは、上級レベルの日本語学習者であっても間違えて書くことの多い漢字である。形が非常に似通っている漢字であれば、見る者はおおよそ類推することができるが、やはり学習者は正しい漢字を覚えることが望ましい。

また、中国語と日本語とで字形が全く同じであるため、意味理解の上で誤解を生みやすいものもある。例えば中国語の「勉強」は「むりやり」の意味で、日本語の「勉強」とは全く意味が異なっている。このように字形が同じである漢字は意味も同じであろうと考えて、学習者は意味の確認を怠りがちになると思われる。指導の

際には両言語の意味を対比させて注意を促しながら行くと、学習者も覚えやすく誤用も減るだろう。

次に、漢字の発音についてであるが、日本語には存在する「長音」と「短音」の区別が中国語にはないため、「数字（すうじ）」を「すじ」,「通知（つうち）」を「つち」と発音しやすい（彭, 2003）。また、一部の中国語の方言を除いて現代中国語には「促音」がないため、「出発（しゅっぱつ）」を「しゅぱつ」,「雑誌（ざっし）」を「ざし」と発音しがちである（彭, 2003）。このような「長音」や「促音」の発音の間違ひは、日本語をひらがなやカタカナで表記する場合にもしばしば見られ、日本語レベルが上級の者であっても化石化して残っているケースが少なからず見受けられる。ひらがなやカタカナ表記の語の場合には、「長音」や「促音」は「う/ウ」や「っ/ッ」によって読み方が明記されるが、漢字の場合にはそれがいないため発音の誤りが多くなる。発音を正しく表記できないために困るのがワープロを使う際である。正しい発音がわからなければ入力を間違えることになり、正しい漢字に変換することは難しい。ワープロが普及しており、大学の授業のレポートなどをワープロで書くことの多い今日にあっては、漢字指導の中でも特に発音指導は、初級の段階から丁寧にしなければならないと思われる。

2.2. 外来語

中国語を母語とする日本語学習者にとって、カタカナ表記の外来語は難しいようである。外来語は「長音」や「促音」が多いため、前述のように母語にこれらをもたない中国語を母語とする日本語学習者は、「スタート」を「スタト」,「ビル」を「ビール」と発音しがちである。長音、促音の厳しい指導が必要である（彭, 2003）。

また、外来語には類似した意味を持つものが多いことも彼らを悩ませる。例えば、「レンタル」と「リース」,「イラスト」と「カット」などで、これらは中国語の辞書では同じ意味として載っている（彭, 2003）。日本語母語話者であってもこれらの違いを正確に説明するのは難しいが、例えば「レンタルビデオ」と「リースのコピー機」,「クラブのメンバー」と「テレビ局のスタッフ」（彭, 2003）のように、実際にこのような外来語が用いられている具体例をあげながら指導すればよいだろう。

さらに、日本語の外来語には「ライス」と「ごはん」,「ミルク」と「牛乳」のように、訳語としては同じ意味を表すはずの外来語と和語・漢語の意味がずれているものがある。これについて彭（2003）は、「外来語」と「和語・漢語」（意味的に近いもの）のペアをセットで教えたほうが効果的であり、そのとき、その語のもつ響

き、使用頻度、書きことばか話しことばか、及び丁寧度などをあわせて指導すれば親切な説明になると述べている。

2.3. その他の文法項目

以上のような語彙の問題のほかに、母語の文法事項が日本語学習の際に干渉することがある。張(2001)は中国語話者の母語干渉例として、指示詞の「こ」と「そ」の問題(誤「あなたのこの口紅, すてきね。」; 正「あなたのその口紅, すてきね。»), 連体修飾の「の」の問題(誤「あの背が高いの人は私のアメリカ友達です。」; 正「あの背が高い人は私のアメリカ人の友達です。»), 完了を表す「た」と「ている」の問題(誤「おまえが大学を出るときには, おれはとっくに死んだ。」; 正「おまえが大学を出るときには, おれはとっくに死んでいる。»)などを挙げている。このようなものについては、中国語と日本語の文法の違いを対比させながら、また誤用例を示しながら説明する方法が考えられよう。

2.4. 敬語

日本では今、大学生以下の若者の間では敬語を使って話す者が減っている一方で、「商業関係の分野において、顧客に対する売り手の敬語使用が極めて丁寧なものとなっている」(国語審議会, 1995, p. 432-433)という現実がある。つまり、日本で生活する留学生は、来日後からデパートや銀行などのさまざまな場面で、敬語を見聞きすることになるのである。そのため、多様な敬語を初級の段階からすべて使うことはできなくても、聞いて理解することができるようにはなっておいたほうが良いと思われる。そこで、山本(1992)も指摘しているように、特に初級の段階では、学習者が使用できたほうがよい使用語彙としての敬語と、聞いて理解できれ

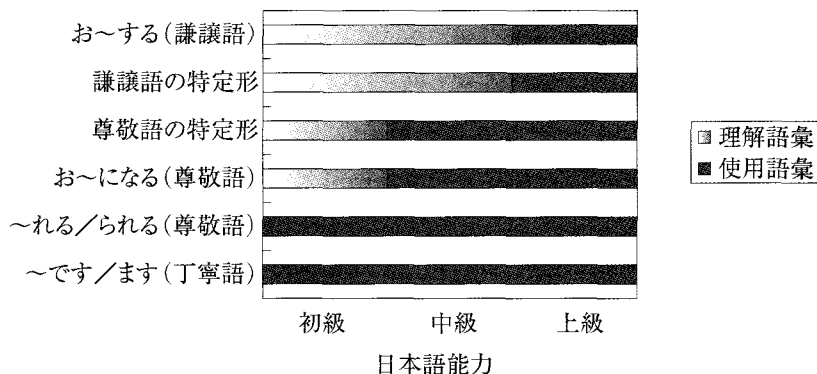


図1 敬語の学習順序

ばよい理解語彙としての敬語を区別して指導するほうが、より効果的であると思われる。

では、いつ、どのような敬語を理解語彙または使用語彙として学習すればよいのだろうか。これをまとめたものが図1である。

図1のように、初級では敬語の使用語彙は丁寧語と尊敬語の「～れる/られる」のみで、あとは理解語彙として学習すればよいだろう。中級では使用語彙に尊敬語の「お～になる」と尊敬語の特定形（「いらっしゃる」「召し上がる」など）が加わるが、謙譲語はまだ理解語彙にとどめ、謙譲語の代わりに丁寧語を用いていけばよい。謙譲語の「お～する」と謙譲語の特定形（「うかがう」「いただく」など）を実際に使用するのは上級になってからでよいと思われる。その根拠について、次に丁寧語と尊敬語、謙譲語とに分けて説明する。

2.4.1. 丁寧語

丁寧語は「～です/ます」形として、表1のように、基本形よりも先に導入している教科書が多く見られる（カイザー、1995）。これは、最初に覚える表現としては、丁寧なものほうを覚えておいたほうが、誰に対しても失礼にならず無難であ

表1 媒介語・英語による教科書における敬語関連事項の導入時（カイザー、1995）

教科書	(課数)	です型	だ型・補充型	お～下さい	お～になる	お～する	受身敬語
TYJ 58	(30L)	L1	L5 (L18)	L18	L30	L30	(-)
TYJ 89	(22L)	L1	L4 (L10)	L08	L18	L9	L21
BJ 63	(35L)	L1	L4 (L6-35)	L18	L9	L13	(-)
JSL 87	(30L)	L1	L9 (L5-12)	L18	L10	L7	L10
NK 74	(50L)	L1	L20 (L27)	L27	L27	L48	L48
SNK 90	(50L)	L1	L20 L49/50	L49	L49	L50	L49

注1. () 内は語彙レベルで、段階に分けて導入。

注2. 「です」型など、「ます」型を含む。

注3. 「お～下さい」は、「お～なさい」を含む。

注4. 教科書の詳細は、以下の通りである。

TYJ 58 : Dunn, C. J., Yanada, S. 1958 *Teach yourself Japanese*. Sevenoaks: Hodder & Stoughton.

TYJ 89 : Ballhatchet, H., Kaiser, S. 1989 *Teach yourself Japanese*. Sevenoaks: Hodder & Stoughton.

BJ 63 : Jourden, E. H. 1963 *Beginnig Japanese, pt. 1 & 2*. New Haven / London: Yale UP.

JSL 87 : Jourden, E. H. 1967 *Japanese: the spoken language, pt. 1-3*. New Haven / London: Yale UP.

NK 74 : 海外技術者研修協会編 1974『日本語の基礎』

SNK 90 : 海外技術者研修協会編 1990『新日本語の基礎』

るとの考えからであろう。もちろん、アクセントも流暢になっているにもかかわらず、敬語が「～です/ます」のみであれば、その学習者は周囲の人から失礼な人間だと思われる可能性がある。しかし、他の文法事項やアクセントの習得も充分ではない初級の段階では、かなりの部分まで丁寧語でカバーできる。まずは丁寧語の「～です/ます」をしっかり指導することが大切である。

2.4.2. 尊敬語

尊敬語については、中級になるまで「～れる/られる」のみを使用語彙として用いていけばよいだろう。これまで、「～れる/られる」は、「お～になる」や、「いらっしゃる」のような敬語の特定形に比べると待遇価値が低いため、他の敬語形式の方を中心に指導する方がよいという意見があった。例えば菊地（1997）は、「～れる/られる」だけではいかにも一本調子で敬語に慣れていないという印象を与えてしまいがちであるため、スマートな（賢い）敬語の使いこなし方として、「～なさる」や「お～になる」といった「～れる/られる」以外の敬語を外国人に対しても薦めていると述べている。

待遇価値が低いということ以外にも、「～れる/られる」は、尊敬の意味のほかに受身や可能といった意味も持っており、文脈の中で意味を捉えにくいという問題点がある。しかしその一方で、使用できる人物カテゴリーが多く、どんな動詞にもほぼ規則的につくことができ（山本，1992）、汎用性が高いという利点もある。語形成の点からいうと、「お～になる」よりも「～れる/られる」のほうがやさしい。山本（1992）は、「お～になる」が難しいのは、まず「～ます」形を考えて、次に接頭辞「お～」を付け、最後に「～になる」を付加するという3段階の課程で形成されているからだとして述べている。一方、「～れる/られる」の方は、動詞の否定形に「～れる/られる」を直接付けて、1段階のみで作ることができるとしている。また、「～れる/られる」は受身形や可能形としても学習するため、活用や接続の仕方などの習得率が高いと思われる。清水（1995）も、「～れる/られる」は最も一般的で安直な敬語化方式であると述べている。さらに、日本語能力が上級レベルの中国語母語話者を対象に行った敬語調査（宮岡・玉岡，2002）においても、「お～になる」や敬語の特定形よりも「～れる/られる」の正答率のほうが高かった。以上のことから、「～れる/られる」は他の表現と比較して文法的に習得しやすいと思われる。

聞き手の側から見ても、「～れる/られる」は最も違和感を覚えない尊敬語のようである。中国地方在住の日本人を対象に行った調査では、「行くの」「行くんですか」「行かれるんですか」「いらっしゃるんですか」の中で、聞き手である日本人が、初

対面の外国人女性が用いる待遇表現として最も適切であると判断したのは、「～れる/られる」を用いた「行かれるんですか」であった（宮岡・玉岡・浮田，1999）。この調査で取り上げた動詞の「行く」に「お～になる」を付加した「お行きになる」は通常あまり使われない語形であるため，調査項目に「お～になる」は含まれてはいない。しかし，「お～になる」と同様に待遇価値の高い「いらっしゃるんですか」が，話し手の年齢を問わず，「行くんですか」や「行かれるんですか」よりも適切ではないと判断されたことから，初対面の外国人女性が用いる敬語としては，「お～になる」よりも「～れる/られる」のほうが適切であると聞き手は判断すると考えてよいのではなかろうか。

従って，「～れる/られる」は，学習者にとって習得が比較的たやすく，また，聞き手の側から見ても違和感の最も少ない表現であると言えるであろう。

また，「～れる/られる」の問題点である意味判別の難しさも，日本語学習者が聞き手とならない限り生じない。日本語学習者が「～れる/られる」を使ったとき，聞き手が日本語母語話者であれば意味を取り違えることは少ないだろう。聞き手が話し手と同じ日本語学習者である場合も考えられるが，そのような場合に両者の母語ではなく日本語で話さなければならないような場面は，日本国内でも比較的頻度が低いと考えられる。つまり，「～れる・られる」は，日本語学習者が話し手として使う場合には，使い勝手が良い，有用性の高い表現だといえる。

さらに，尊敬語の「お～になる」は，謙讓語の「お～する」と形がよく似ており，日本語母語話者であっても誤用が増えている表現である（菊池，1997）ことも考慮に入れた方がよいだろう。

以上のことから，山本（1992）も指摘しているように，尊敬語を初級の日本語学習者に指導する場合，使用言語としてはまず「～れる/られる」を中心に指導し，その他の尊敬語は主に理解言語として指導することが一つの方法として考えられる。「お～になる」と尊敬語の特定形を使用語彙として学習するのは，中級になってからでよいだろう。

2.4.3. 謙讓語

上述のように，謙讓語の「お～する」は尊敬語の「お～になる」と語形が似ていることから，現在，日本語母語話者の間でも，「お～する」を尊敬語として誤って用いるという，敬語システムを揺るがしかねない誤用が増えている（菊池，1997）。これは，日本語母語話者の間でも謙讓語が衰退の方向に向かっていると言われていくこととも関連するだろう。そこで，日本語学習者に対しては，謙讓語は上級にな

るまでは理解語彙として指導し、初級から中級までの間は謙讓語の代わりに丁寧語を使用するという指導方法を提案する。また、「お～する」と謙讓語の特定形（「何う」「拝見する」など）を比較すると、「お～する」の方が謙讓語の特定形よりも中国語を母語とする日本語学習者にとっては難しいようである（Miyaoka & Tamaoka, 2001）。このことから、謙讓語の導入順序としては、謙讓語の特定形を先にしてその次に「お～する」を指導すると効率的であると考えられる。

3. お わ り に

本稿では、中国語を母語とする日本語学習者にとって習得が難しい文法形式について簡単に触れたあと、効果的な敬語教育とは何かを中心に考察した。まず、日本語と中国語の相違点だけでなく類似点も日本語の習得に干渉することを述べた。次に、特に敬語に焦点を絞り、中国語母語話者に対してどのような敬語指導が効果的であるのかについて一つのモデルを示した。

外国人であっても、日本国内で日本語でコミュニケーションをとる際に敬語を全く使わずにすませることは、煩雑さを回避できるという利益以上の不利益を話し手に与えることになるだろう。かといって初級の段階から必要以上に神経質になって難しい敬語を覚える必要もない。しかし、発音に関する先行研究で、発音が下手なうちは許容されるなまりも、学習が進み発音がうまくなるにつれて評価が厳しくなるということが明らかになっている（小河原, 1993）。このことから、敬語についても、日本語全般のレベルが上がってくると、聞き手である日本語母語話者が日本語学習者の言葉遣いに対して厳しくなることが予想される。学習者は日本語全般のレベルの向上に応じて敬語もきちんと身に付けておく必要があるだろう。

現在では、日本への留学後に日本企業への就職を希望する留学生が増加しつつある。日本企業に就職した場合、留学生は、現在ますます丁寧になりつつある商業敬語を使って仕事をしていかななくてはならない。日本企業への就職希望者に対してはきめ細かな敬語指導を行うなど、学習者のニーズに応じた指導が必要であることは言うまでもない。

引 用 文 献

- シュテファン・カイザー (1995). 日本語教育と敬語. 国文学, 40 (14), 128-131.
菊地康人 (1997). 敬語. 講談社学術文庫.
国語審議会 (1995). 新しい時代に応じた国語施策について—第20期国語審議会審議経過報告 (1995.11.8). 国語年鑑1995年版. 秀英出版.
宮岡弥生・玉岡賀津雄・浮田三郎 (1999). 外国人が用いた待遇表現に対する中国地方在住

の日本人の評価。日本語教育, 103, 40-48.

Miyaoka, Y. & Tamaoka, K. (2001). Use of Japanese honorific expressions by native Chinese speakers. *Psychologia*, Vol. 44, No. 3, 209-222.

宮岡弥生・玉岡賀津雄 (2002). 上級レベルの中国語系日本語学習者と韓国語系日本語学習者の敬語習得の比較. *読書科学*, Vol. 46, No. 2 (通巻 第180号), 63-71.

文部科学省高等教育局学生支援課 (2004). 我が国の留学生制度の概要—受入れ及び派遣—.

小河原義朗 (1993). 外国人の日本語の発音に対する日本人の評価. *東北大学文学部日本語学科論集*, 3, 1-12.

彭飛 (2003). 外国人を悩ませる日本語から見た日本語の特徴 ~漢字と外来語編~. 凡人社.

彭国躍 (1999). 中国語に敬語が少ないのはなぜ? *月刊言語*, 338, 60-63.

清水康行 (1995). 動詞の敬語法. *国文学*, 40 (14), 72-76.

母育新 (1999). 待遇表現の習得における中国人学習者の問題点と教科書が与える影響. *平成11年度日本語教育学会秋季大会予稿集*, 165-170.

山本富美子 (1992). 初級敬語教育に関する1試案. カッケンブッシュ寛子・尾崎明人・鹿島央・藤原雅憲・粕山洋介編, *日本語研究と日本語教育*, 289-304, 名古屋大学出版会.

張麟声 (2001). 日本語教育のための誤用分析. スリーエーネットワーク.

* 本稿は、「日中留学交流シンポジウム」(中国高等学校外国留学生教育管理学会; CAFSA と国際教育交流協議会; JAFSA の共催により, 2004年9月25・26日に上海国家会計学院にて開催された。)において口頭発表した原稿(原題「中国語母語話者における日本語習得上の困難点—効果的な敬語教育に関する考察を中心に—」)に若干加筆, 修正したものである。